

2021 年度（2020 年 9 月～2021 年 8 月）

第 3 回日本医真菌学会理事会議事録

日時：2021 年 7 月 21 日（水）18：00～21：45（オンライン開催）

出席：

澁谷和俊（理事長）

泉川公一、大野尚仁、亀井克彦、神田善伸、杉田 隆、原田和俊、福田知雄、榎村浩一、
宮崎義継、望月 隆 以上理事 11 名

小川祐美、村山琮明 以上監事 2 名

掛屋 弘、金子健彦、三鴨廣繁、山岸由佳、若山 恵 以上幹事 5 名

議題：

（報告）

1. 前回理事会議事録確認（宮崎総務理事）

2021 年度第 2 回理事会議事録の確認を行った。

2. メール審議結果報告（澁谷理事長）

2021 年度第 5 回（2021 年 4 月 6 日～4 月 12 日、用語委員会発議の「*C. auris*」の日本語表記を「カンジダ・アウリス」と定義する件）、第 6 回（2021 年 5 月 10 日～5 月 17 日、用語委員会の「*Cladophialophora bantiana* ならびに関連菌種の学名ならびに日本語表記について」の提案について）のメール審議の結果確認を行った。

3. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2021 年 6 月 30 日現在の会員数は、個人会員 824 名（国内 823、海外 1）、顧問会員 1 名、奨励会員 28 名、名誉会員 25 名（国内 23、海外 2）、功労会員 36 名、賛助会員 17 社（43 口）、団体購読 21 名であることが報告された。前回理事会時から異動は少なかった。

4. 各種委員会報告

1) 編集委員会（宮崎理事）

.2020 年 9 月～2021 年 7 月までの論文投稿状況について報告があった。

. 2021 年日本医真菌学会優秀論文賞の選出について下記報告があった。

Authors: Nami Hasegawa, and Kazutoshi Shibuya

Title: Development of an Animal Model of Onychomycosis in Guinea Pigs

（Medical Mycology Journal Vol. 61 No. 4 に収録）

. 第 64 回学術集会におけるシンポジウムの演者（会員）を対象に執筆依頼を行い、承諾

いただいた演者の報告があった。

.インパクトファクター

6月30日時点まだインパクトファクター取得には至っておらず、引き続き引用数を上げる必要がある。インパクトファクターを取得している雑誌から引用数がカウントされている。

.オンラインジャーナルの費用

雑誌をオンラインジャーナルへ移行した場合の費用についてシミュレーションを行った。

2) 用語委員会 (大野理事)

.ICD-11 和訳作業

821語の和訳に対応している。8月締め切りのMMS版の作成を委員会で行い、澁谷理事長に提出した。今後は12月締め切りのFoundation版の作成を今後進める。続いて福田理事から報告があった。日本皮膚科学会から本会へICD-11和訳作業の協力依頼があった。皮膚科の診断名について協力してほしいという主旨であった。これと用語委員会の作業内容が重複するため、皮膚科領域の部分は福田理事に確認いただき、分担をすることとした。

.C.auris の和名検討

2021年度第5回メール審議で「カンジダ・アウリス」とすることの承認を得ている。

. Microsporum 関連カタカナ表記について

委員会で更に検討を重ねる予定である。

. Cladophialophora bantiana 日本語表記について

後日委員会の最終案をもってメール審議を行うこととした。

. 用語解説の掲載

No.30,31をMMJ誌に掲載した。

3) 将来計画委員会 (神田理事)

会員増加の施策として、学会参加やセッション単体で単位取得が可能にならないか検討をしている。

4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

.侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン作成委員会

(泉川理事)

最終段階に来ており、発刊が間近となっている。

.希少真菌症診断治療のガイドライン（仮称）作成委員会（掛屋幹事）

昨日 Web 会議を開催した。現在執筆依頼を行っている。システムティックレビューを導入するか検討している。

5) 支部会・関連学会委員会（泉川理事）

これまでの活動内容と今後の開催予定について報告があった。コロナ禍で開催中止や延期の地域が多いが、Web 開催や現地開催した地域もあった。Web 開催で利用する Zoom のアカウントを本会が保有して、支部等へ貸し出すという意見があった。補助金が満額支出されていない状況を考慮すると今後検討の余地が十分にある。また、学術集会をハイブリッド形式で開催するため、そのアカウントを移譲することなども考えられる。今後の検討課題とした。

6) 疫学調査委員会（福田理事）

2021 年が調査期間であり、3 カ月に一度調査データを提出いただくことにしている。しかしながら、施設により 1 年分まとめて提出を希望してきているところがある。

7) 教育委員会（杉田理事）

後述する。

8) 広報委員会（槇村理事）

後述する。

9) 専門医・認定師委員会（原田理事）

後述する。

10) 規約検討委員会（澁谷理事長）

報告事項なし。

11) 倫理委員会（原田理事）

報告事項なし。

12) 利益相反委員会（亀井理事）

報告事項なし。

13) バイオセーフティー委員会（村山監事）

「真菌のバイオセーフティレベル分類」の試案が提示され、説明があった。この理事会後に確認期間を設けて、後日パブリックコメントを実施するかメール審議を行うこととした。

5. 第 64 回総会報告（澁谷理事長）

収支計算書が提示され、収支報告があった。

6. 総会準備状況報告

1) 第 65 回総会（宮崎理事）

収支予算について報告があった。改めて謝辞が述べられた。

会期：2021 年 10 月 29 日（金）～10 月 30 日（土）

会場：第一ホテル東京

2) 第 66 回総会（三鴨幹事）

開催概要について報告があった。現在趣意書の作成を行っている。

会期：2022 年 10 月 1 日（土）～10 月 2 日（日）

会場：長良川国際会議場

3) 第 67 回総会（福田理事）

内容は今後検討する予定である。

4) 第 68 回総会（杉田理事）

APSM と合同開催を予定している。

会期：2024 年 11 月 6 日（水）～9 日（土）

会場：国立京都国際会館

7. 関連国際学会・会議に関する報告（杉田理事）

ISHAM Asia ならびに ISHAM の開催予定について報告があった。ISHAM Asia は初回の開催となり、ISHAM の Asia ワーキンググループという位置づけになっている。

8. ICD 制度協議会報告（金子幹事）

ICD 講習会を Web 開催した場合の交付金について説明があった。協議会の提案を承諾し、補助金を受け取った。ハイブリッド形式での学会開催になると主催者側が赤字になるため、交付金の値上げを提案した。

9. 内保連報告（山岸幹事）

これまでの内保連の会議開催状況について報告があった。本会から提出した令和 4 年度診療報酬改定における一次提案書について報告があった。「排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査」については日本皮膚科学会と日本臨床皮膚科医会と共同で提出をしており、福田理事がヒアリングへ出席する予定である。

10. 医学会・医学会連合に関する報告（宮崎理事・小川監事）

報告事項なし。

11. 日本微生物学連盟に関する報告（杉田理事）

5月28日に日本微生物学連盟理事会、日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS分科会・病原体学分科会合同会議が開催された。日本微生物学連盟理事長の任期満了に伴い、選挙が行われ新理事長として長田裕之先生（理化学研究所）が選出された。

12. 新たな顕彰制度検討の件（澁谷理事長）

昨年10月に顕彰制度検討委員会の答申の内容について説明があった。

13. その他

1) 第23回酵母合同シンポジウムの共催（澁谷理事長）

昨年開催予定であったが、今秋に延期となった。

2) 第95回日本細菌学会総会の後援（澁谷理事長）

後援の依頼があり、承諾したことが報告された。

3) ICD-11 和訳対応

議案4-2)で記述済。

（審議）

14. 2021年度事業報告案・2022年度事業計画案（宮崎総務理事）

2021年度事業報告案および2022年度事業計画案が提示された。異論はなく承認された。各委員会開催については昨年同様にオンラインでの開催を原則として、第65回学術集会前に行い、代議員総会で活動報告をするよう、澁谷理事長より各委員長に依頼があった。

15. 2021年度決算見込み・2021年度予算案（望月財務理事）

6月30日時点での決算見込みと次年度予算案について説明があった。約150万円の黒字で2021年度は決算する予測である。侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインに関わる収入と支出が、2021年度から2022年度にスライドする見込みである。これを踏まえて2022年度予算案は約99万円の赤字予算である。学術集会の配信動画のコンテンツ作成費用として、学術集会支出に100万円を追加計上した。このコンテンツは学会ホームページの教育用動画に掲載することになる。次回理事会で決算および予算の承認と行うこととした。

16. 学会賞・奨励賞選考

1) 学会賞選考（大野理事）

5月15日を期日に公募をしたが、推薦がなく規約に従い、選考委員会および当該年度総会長の協議により以下2名の候補者推薦を行った。審議の結果、両名を受賞資格ありと認

めたことが報告され、全会一致で承認された。

- ・候補者：泉川公一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野 教授）

受賞業績：

慢性肺アスペルギルス症のよりよい理解のための臨床研究～病態、診断、マネジメント～

- ・候補者：横村浩一（帝京大学医真菌研究センター・副センター長 教授）

受賞業績：

健康を障害する真菌および関連微生物の医学的管理と生物学的・生態学的理解に関する研究

2) 奨励賞選考（泉川理事）

本年は下記2名の推薦があり、委員会で審議し両名とも受賞資格ありと認めたことが報告され、全会一致で承認された。なお、委員長が同一の所属であったため、小川祐美先生を副委員長に選出し委員会選考を進めたことも併せて報告があった。

- ・氏名：高園 貴弘

所属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学

研究業績：Evaluation of Aspergillus-Specific Lateral-Flow Device Test Using Serum and Bronchoalveolar Lavage Fluid for Diagnosis of Chronic Pulmonary Aspergillosis.

- ・氏名：山中 大輔

所属：東京薬科大学薬学部免疫学教室 助教

研究業績：病原性真菌細胞壁多糖の検出における新規タンパク質プローブの開発に関する研究

17. 専門医認定の件（原田理事）

1) 2021年度専門医審査結果

新規5名、更新19名、留保1名を合格としたことが報告され、異論なく承認された。

- ・新規（5名）

澤田 雄宇 産業医科大学皮膚科

下山 陽也 帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科

坂 義経 きらり皮フ科クリニック

望月 弘和 金沢医科大学病院皮膚科

楊 彩佳 帝京大学医学部附属病院

・更新（7名）

五十棲 健、石崎 純子、小川 祐美、亀井 克彦、関 雅文、福山國太郎、本田 明

・更新 65 歳以上（12名）

清島真理子、田沼 弘之、望月 隆、高木 宏治、坪井 良治、藤広満智子、

桐生 博愛、楠 俊雄、高橋 容子、小川 秀興、西川 武二、西本勝太郎

・留保（1名）

岩田 貴子（2回目）

2) 申請資格の研修施設と論文の条件

専門医規則第2条に定める研修施設および業績を明確にするための提案がなされた。内容に異論はないが、規則の改定を行うこととし、後日メール審議を行うこととした。

18. 名誉会員・功労会員の推薦（澁谷理事長）

本年の名誉会員推薦の対象者はなし。功労会員は次の1名であり、就任いただくことを理事会の総意とした。

・石島 早苗先生（帝京大学医真菌研究センター）

19. 顕彰制度の改変（澁谷理事長）

顕彰制度の改変案が提示された。2週間程度確認期間を設け、後日メール審議を行うこととした。

20. 講習会の開催形式（杉田理事・楨村理事・望月理事）

以下内容で第9回皮膚真菌症指導者講習会を開催することを承認した。

- ・対面講習を中止とする。
- ・オンデマンド方式で開催として、学会ホームページの教育用動画に掲載する。
- ・受講料は無料とする。
- ・動画コンテンツを聴講し、指定した期間内にポストテストを受講した者に対し参加証を発行する。

21. その他

1) Vimeo 導入の検討（澁谷理事長）

次回理事会で再度審議を行うこととした。

2) アスペルギルス研究会（泉川理事）

事務局を担当していた千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野の亀井教授の定年退官に伴い、研究会を終了することとなったため、同様の趣旨の研究会を学会として立ち上げてはどうかという提案があり議論した。ISHAMのワーキンググループのような形式で医真菌学会の中に存続させるなど意見があった。アスペルギルス症を念頭に菌別にワーキンググループを設置することの検討を、支部会・関連学会委員会の中で開始することとした。

22. 報告事項での審議事項

1) 教育委員会（杉田理事）

第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会でのシンポジウム（共催）を行うことが承認された。

2) 広報委員会（槇村理事）

用語解説のホームページ掲載に関する説明と費用が提示された。掲載方法と費用について審議し承認された。引用するときのために、用語ごとに日本医真菌学会雑誌〇巻〇号掲載と明記することとした。

3) 第65回総会（宮崎理事、村山監事）

協賛企業から寄付手続きの申し出があり、学会の事業報告書、決算書、役員名簿、定款、前回学術集会の決算書等の資料提出が求められている。これらの情報を提供することについて審議し承認された。

合同開催の真菌症フォーラムが今回で解散となるため、シンポジウムのサブタイトルとして「真菌症フォーラム最終回記念」と銘打つことが諮られ、承認された。

2021年7月28日

議事録作成人 理事長 澁谷和俊

議事録署名人 監事 小川祐美

議事録署名人 監事 村山琮明